

会 議 要 旨

(1 / 4)

会議の名称	令和5年度第2回川越市立博物館協議会
開催日時	令和6年2月8日(木) 午前10時00分 開会 午前11時45分 閉会
開催場所	川越市立博物館 会議室
議長(会長)	山野清二郎(会長)
出席委員 (人数)	山野清二郎(会長)、能瀬さち子(副会長)、水谷薫(副会長)、佐藤誠、羽石明、松本紀美子、服部安行、鎌倉敬文、河合正雄、濱田由理子、笛木栄、矢野礼美(12人)
欠席委員 (人数)	生駒義郎、矢部智史、寺田智礼(3人)
事務局職員 職 氏 名	岡田館長、荻野副館長、平野副主幹、杉野副主幹、大澤副主幹、鈴木主任
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 事</p> <p>(1) 令和6年度博物館事業計画(案)について</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉 会</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和5年度第2回川越市立博物館協議会 次第</li> <li>・ 令和5年度第2回川越市立博物館協議会 資料 等</li> </ul>

## 議 事 の 経 過

## 1 開 会

## 2 議 事

## (1) 令和6年度博物館事業計画(案)について

令和6年度学芸担当事業計画

(事務局より説明)

**【意見・質疑応答】**

- ・ノガタ、サトカタとはどのような意味か。ノガタはどの地域を示す言葉か。  
(回答) ノガタは畑作、サトカタは稲作地域を意味している。主に武蔵野台地の南側を示している。
- ・タイトル「ノガタとサトカタ」は博物館協議会員であっても内容の想像がつかない。企画展のタイトルは可能な限り分かりやすくしてほしい。
- ・「川越動物園～動物グッズ大集合！」では昭和20年代～30年代のころにあった移動動物園にも触れてもらいたい。
- ・「川越動物園～動物グッズ大集合！」ではどのような動物を集める予定なのか。  
(回答) モチーフとして描かれる動物を集めて展示する予定である。
- ・子どもが率先して来館する企画展がよい。
- ・今回の企画展が三世代揃って博物館に出かけるきっかけになることを期待している。
- ・名刀展は固定ファンがいて根強い人気がある企画である。
- ・刀剣は外国人にも人気の高いコンテンツであるため、外国人向けの企画展のPRがあるとよい。刀剣などに関心がある外国人はSNSを活用して情報収集する。SNSを活用して来館者を増やす工夫が必要ではないか。
- ・次年度の企画展は内容に偏りがなく、よいと思う。

## 議 事 の 経 過

令和6年度教育普及担当事業計画

(事務局より説明)

**【意見・質疑応答】**

- ・博物館歴史講座は次年度以降、時代を下っていくのか。  
(回答) その予定である。
- ・次年度の各体験講座の募集人数は何名か。  
(回答) 4月に募集人数を含めた年間事業の予定表を出す。
- ・公民館と連携は行っているか。事業が重なることはないのか。  
(回答) 特に調整していない。事業が重なって困っているという話は聞かない。
- ・子ども体験教室と企画展の関連性があってもよいのではないか。  
(回答) 内容が未定の事業は企画展に関連した内容で実施できないか検討する。
- ・「戦争体験を語り継ぐ」子どもたちをうまく巻き込んで、戦争体験を次世代へ引き継ぐ事業があってもよいのではないか。  
(回答) 検討する。
- ・戦時中と現在では環境にも意識にも断絶がある。子どもたちが当時の環境等を想像しやすいような工夫が必要である。  
(回答) 「戦争体験を語り継ぐ」では戦時中のことをイメージしやすいようにプロジェクターで当時の状況の映像を映している。
- ・自分の実生活から離れたところでは想像がしづらい。博物館ならば身近な部分から戦争体験を次世代に引き継ぐことが可能ではないか。
- ・博物館事業として取り上げることで民俗芸能にスポットがあたるのはよい。
- ・蔵の街で開催するなど、地域の博物館として事業を面として広げていく、地域の民俗芸能を広く市民に知らせるということが必要となる。
- ・民俗芸能の実演を見る機会を与えることもだが、民俗芸能を残していくためには子どもたちが入りやすい入口を作ってあげる必要がある。
- ・川越の民俗芸能をテーマとした、企画展等はあるか。  
(回答) 過去に講に関わる展示はあった。博物館として、埋もれた民俗芸能を紹介できる。文化芸能の継承支援等は主に文化財保護課や文化芸術振興課が行う。

## 議 事 の 経 過

- ・各学校の教員が生徒に対して川越の歴史を教えられるように研修を実施してほしい。  
(回答) 研修の日程や内容は教育指導課と調整しながら行っている。
- ・博物館の活動は評価しているが、身近な教員が川越の歴史や文化財について話すことは生徒への影響が違う。川越の歴史や文化財を理解してもらうための教員へのサポートが足りないのではないか。
- ・最近、子供たちが習うことを自分が学んで子どもへ教えたいという流れがあり、大人が学びに積極的になっている。大人向け、パパママ世代をターゲットにした川越を学ぶ機会を提供すると伸びるのではないか。
- ・川越を知ってもらいたいならば身近なものから考える機会が必要である。
- ・川越は食べ歩きだけをして帰ってしまう観光客が多い。川越の歴史や文化など本来の川越の良さを掘り起こしていくことも博物館の仕事のうちではないか。
- ・自身は川越の歴史について興味がなかったが、商工会議所の実施していた小江戸川越検定を受験したことを機に歴史に興味を持った。そのようなきっかけを作る事業があるとよい。
- ・川越市立博物館も川越まつり会館も同時に閉館していると川越を学びにきた人が学ぶことができなくなってしまうので、時期をずらせるとよかったのではないか。
- ・その他意見・質問なし。
- ・令和6年度博物館事業計画(案)について承認された。

## 3 その他

蔵造り資料館 YOUTUBE チャンネルを視聴する。

(事務局より説明)

【意見・質疑応答】なし

委員よりその他にて質問

- ・協議会委員の視察はないのか。  
(回答) 展示のリニューアル計画に反映させるべき件があれば視察を行う。
- ・協議会委員の知識を深める機会は研修があればよいのではないか。外部の博物館の知識も必要である。